



おじいちゃんたちの 笑顔がみたい

—老人介護で活躍する知的障害者—

(福岡県飯塚市)





「亡くなった自分のおじいちゃんの世話をしてあげたかったから、介護の仕事を選びました。今、自分のおじいちゃん、おばあちゃんと思って仕事をしています。みなさんとお話ししながら、毎日楽しいです」と話す岩迫清美さん（左）。「まだ慣れないこともあり、ついていくのがたいへん。でも、やりがいがあります」という西川博美さん（右）



特別養護老人ホーム第二いずみ苑



「明るく素直。慣れるまで多少時間がかかったが、覚えてからは手ぬぎをしない。自立までやさしく見守りたい」という施設長の岩迫評



せき髄損傷者職業センターで訓練に励む岩迫さん（平成11年、写真提供：第二いずみ苑）



平塚隆典理事長（右）と伊東紅施設長（左）

「○○さん、おはようございます。よく眠れましたか」
 「△△さん、今日はひげを剃ろうか」
 「今晚は××さんの好きなテレビ『水戸黄門』があるね。楽しみだね」
 ——話しかける岩迫清美さん（二十七歳）に、お年寄りたちが孫をみるような笑顔で応えている。

特別養護老人ホーム第二いずみ苑の朝のはじまりだ。岩迫さんと西川博美さん（二十一歳）は、このホームの介護職員として、二年前から活躍している。

二人は平成十年から、せき髄損傷者職業センター（福岡県飯塚市）で試行されてきた「知的障害者の介護分野への職域拡大事業」で指導と訓練を受け、第二いずみ苑へ就職した。

現在までに、一八名の知的障害者がこの指導・訓練（所内指導六週間、職場実習六週間を二カ所の全一八週間実施）を受け、一一名が特別養護老人ホーム、老人保健施設、デイサービスセンターなどで活躍している。

岩迫さんたちを受け入れた第二いずみ苑の伊東紅施設長も、

「はじめは、知的障害者に対する不安がありました。しかしセンターの先生たちの強い勧めで、岩迫さんを



用具や機器の整理



ベッドメイキング



洗濯物の整理



ポータブルトイレの洗浄



排泄介助と洗浄



爪切りやひげ剃り



ホーム内の掃除



室内ボーリングで
楽しいレクリエーション



車いすへの移乗、体位変換などでは、
職員との補助を。単独ではしないよう指導されている



搬送介助



おやつ配り、配膳・後片づけと仕事は幅広い。
食事介助も、職員目の届く範囲とする



あいさつや声かけは介護の基本。岩迫さんの明るい対応を
素直に受け入れる

●社会福祉法人いずみ福祉会
特別養護老人ホーム第二いずみ苑
〒 820-0051 福岡県飯塚市大字庄司 1941-1
TEL 0948-23-5778

●日本障害者雇用促進協会
せき髄損傷者職業センター
〒 820-0053 福岡県飯塚市大字伊岐須 550-4
TEL 0948-24-7500 FAX 0948-29-0878

受け入れてみました。最初は職員もイライラしたようですが、いろいろ指導をすると、積極的に仕事をしてくれるようになりました。

お年寄りたちにもほどよい目線で対応している姿から、私も職員たちも、学ぶことが多かったです。彼女たちが来てから、笑顔が多くなった気がします」と岩迫さんたちの成長に期待している。

高齢化社会の進展に伴って介護へのニーズが高まり、今後、さらなる労働力が必要とされるこの分野で、知的障害者の新たな活躍が期待される。



フォローアップのため篠田千登世寮母長（中）をたずね、岩迫さんたちの活躍ぶりをみる
せき随損傷者職業センターの穂坂英春障害者職業カウンセラー（左）



正月に振袖を着て、お屠蘇をサービス。
入所者にたいへん喜ばれた(写真提供：第二いづみ苑)

●社会福祉法人穂波学園（淵上忠彦理事長）
〒820-0051 福岡県飯塚市大字庄司1150
TEL 0948-22-3022 FAX 0948-24-0142



穂波学園通勤寮で生活する岩迫さんと西川さん



ホームヘルパーの資格を2年後ぐらいに取りたいと、準備中の岩迫さん



仕事を終えたあと、穂波学園でバレーボールの選手として活躍する2人